

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

やっと見つけた！ 福祉の外に本当の福祉がある

特定非営利活動法人ほびあ
理事長 関口幸一

世の中の誰もが、ほびあは福祉団体だと言います。これだけの規模であれば、そろそろ社会福祉法人化したら、というアドバイスも良くいただきます。

こんな時、私は「ほびあは福祉団体ではないので…」という返事をするのですが、大抵の場合、不思議そうな顔をされます。「それにほびあは福祉はやっていないので…」等と言おうものなら、もう理解不能と言った感じの反応があることがあります。

でもこれは本当のことなのです。では、ほびあは何をしているのでしょうか。

行政では障害者に対する各種の福祉施策があります。入所とか、ヘルパー派遣とか…。よく考えてみて下さい。これらは障がい者の障害に着目して、それにどう対応していくかという視点から施策が講じられていませんか。

ほびあがやっていることは違います。一人ひとりが地域社会で暮らし、人生を送るための応援をしているだけです。それがほびあがやっていることの全てです。

人は皆、夢や希望があり、得意な点や弱点をもった「人間」です。人は皆、得意を生かし、弱点は助け合ったり他の方法でカバーしたりしながら生活しています。このことは障害者であろうとそうでなかろうと同じことです。人間にとって一番大事なことは、できることや得意なことを活かして人生を構築することであり、夢や希望を大切にすることであり、「できない」ことを基本に暮らしや人生を構築することではありません。

福祉はできない部分をカバーする道具です。福祉が全てになったとき、その人の暮らしも人生も、何もかも全てが消滅させられてしまいます。本当にそれで良いのでしょうか。

本当の福祉とは、福祉を道具に、その福祉の外にある福祉を言うのではないのでしょうか。

皆さんは、福祉に着目するあまり、福祉制度の中から事業を選ぶという視点になっていないのでしょうか。本当にそれで良いのでしょうか。

ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

上野 秀樹氏（海上寮療養所・副院長）

旭市にある精神科病院『海上寮療養所』の副院長の上野秀樹先生は、認知症高齢者の訪問診療を行っています。個人宅はもちろん、精神科のない医療機関や高齢者施設への往診、そしてケアマネ、介護職に向けた研修会など、認知症高齢者を地域で支えて行くための仕組みづくりに熱心に取り組んでいます。

「認知症の基本症状は脳の神経細胞が死滅してしまうことによる直接的な症状、すなわち記憶障害や見当識障害、判断力の低下などのいわゆる中核症状と呼ばれる症状ですが、時に不安、いらいら、幻覚・妄想や興奮状態などを呈することがあります。多くの場合、こういった認知症の方の精神症状・行動障害はケアや対応の工夫で改善します。現在の制度上、認知症の中核症状やケアや対応の工夫で改善する精神症状・行動障害に基づく問題に関しては、介護保険のケアマネジメントシステムの利用と、様々な介護保険サービスの活用で対応することができます。

認知症ケアの現場でもっとも困ってしまうのが、ケアや対応の工夫で改善しない精神症状・行動障害を持つ方への対応です。実は、こういった方は医者嫌い・病院嫌いの方が多く、医療に結びつけるのが困難なことが多いのです。「どうしよう、どうしよう」と困っている間に介護者や家族が深く傷つき、精神科への入院を余儀なくされることもありました。そこで私たちは考えました。受診ができないのであれば、こちらからお伺いしようと。こうして当院では訪問診療をはじめることになりました。

当院がこの取り組みをはじめて1年2ヶ月が経過しました。デメリットの多い認知症の方の精神科入院を大幅に減らすことができたり、精神科のない医療機関でスタッフが安心して本来の治療を行うことができるようになったり、大きな成果が生まれてきています。」

認知症を地域で支えるためには、ご家族や介護者への支援が大切です。そのために上野先生は介護するご家族や関係施設に携帯電話の番号を教えています。

「電話番号を教えることに関しては、当初は少し抵抗があったのですが、実際やってみると治療上とても有効なことがわかりました。いつでも専門家に連絡できるということで得られる安心感と心の余裕が、介護態度に反映されて、ご本人の症状が落ち着くんですね。」

最近、月に40人の新患の方が受診されるそうです。「大変ではありませんか？」とお聞きしたところ、笑顔で次のように答えてくれました。

「喜ばれ、感謝されることも多い、とてもやりがいのある仕事です。この認知症の方を地域で支える方法が全国に広まれば、いろいろな意味で福音になるものと考えています。」

精神科病院「海上寮療養所」

事業所の所在地 ■ 〒289-2513 旭市野中4017

電話 ■ 0479-60-0601 FAX ■ 0479-60-0661

mail ■ kaijoryo@rosario.jp URL ■ <http://www.rosario.jp/kaijoryo/>





ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

[山武市] 一人で悩まないで！共に支えあう介護をめざして

日時：平成23年3月5日（土）13時30分～15時45分（開場13時）

場所：山武市成東文化会館（のぎくプラザ）視聴覚室（山武市殿台290-1、成東駅徒歩7分）

講師：酒井 邦浩さん（「認知症の人と家族の会」千葉県支部世話人）

畠 淳子さん（JA千葉厚生連事業部介護事業課長）

定員：100名

参加費：無料

託児：無料。6か月以上就学前（事前予約が必要、お子様の名前と年齢を添えて申し込み、2月25日締切）

申込み：電話またはメールで、開催日・氏名・住所・性別・電話番号をお知らせください。

kenkyouse@mz.pref.chiba.lg.jp

ちば県民共生センター 043-252-8036

[柏市] ～メディアの中の「女らしさ」「男らしさ」～ メディアはどのように“できごと”を語るか

日時：平成23年3月5日（土）13時30分～15時30分

場所：さわやかちば県民プラザ3階中研修室2

講師：諸橋泰樹さん（フェリス女学院教授）

定員：40名（申込先着順）

参加費：無料

託児：無料（事前予約が必要、お子様の名前と年齢を添えて申し込み、2月25日締切）

申込み：開催日・氏名・住所・電話番号・FAX番号を記入の上、以下の宛先までお申し込み下さい。

（FAXまたはメール、電話も可能）

ちば県民共生センター東葛飾センター

柏市柏の葉4-3-1 さわやかちば県民プラザ内

電話 04-7140-8602 FAX 04-7140-8604

メール k-koza@mz.pref.chiba.lg.jp



わたしの町の**中核地域生活支援センター**

中核地域生活支援センターほっとねっと センター長 藤井公雄

「中核地域生活支援センター ほっとねっと」は千葉県の東葛北部の我孫子市、松戸市、流山市を圏域とするセンターです。事務所は、JR武蔵野線、地下鉄千代田線、総武流山電鉄の交わる松戸市新松戸にあります。

ほっとねっとの特徴は圏域が都心に近く、人口が多いことです。3市をあわせると80万人弱の人口になります。その中に地域で障害のある方、高齢者、子育てなど様々な分野で活動されている方々（団体）がいます。そういった方々と一緒に地域で安心して生活できる街づくりができればと思っています。

また、この地域は都心に近いことから路上生活者の支援や大規模住宅の高齢化が進み、高齢者支援や障害のある方のいるご家庭の親亡きあとの生活支援が大きな課題になってきています。昨年からは権利擁護活動を積極的に行っているNPO法人と一緒に相談会や弁護士や司法書士の方々行政の担当課との支援連携も増えてきました。これらの活動も中核地域生活支援センターの事業や実際の活動を地域の方々に理解していただき、具体的な支援を積み上げていった結果だと思っています。これからも地域との連携を中心に不安のない暮らしを支えていけたらと思います。

中核地域生活支援センター ほっとねっと（我孫子市・松戸市・流山市）

〒270-0034 松戸市新松戸4-129 関口-第5ビル1-A

TEL 047-309-7677

FAX 047-309-7678

MAIL hotnet@aozora-clinic.org

<http://www.aozora-clinic.org/>



アクセス

JR武蔵野線 新松戸駅

地下鉄千代田線 新松戸駅

総武流山電鉄 幸谷駅

下車:徒歩10分

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：すけっと（印旛圏域）佐倉市鏡木仲田町9-3 TEL:043-483-3718 FAX:043-483-3719

編集：海匠ネットワーク（海匠圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匠ネットワーク（担当：くらた藏田）までお願いします。